日本一小さな村だった　　2005.12.1

新豊根村の富山地区を訪ねる

11 月 27 日をもってその歴史を閉じた旧富山村、愛知県の北東端の辺境の地を、終り行く紅葉とともに 12 月 1 日に訪ねた。今回は佐久間ダム、旧富山村そして豊根村から東栄町へまわり、ここで療養泉として分類される「とうえい温泉」に浸かることも目的にしている。この療養泉というのは、認定されると医師の指導のもとで温泉病院など医療行為にその効能を活用することができるもので、近隣では下呂温泉がそれに分類されているという。

天竜川と旧富山村　　正面は漬物工場、右端の上は学校

湾岸、東名から佐久間ダムへ

8.00”に出発し知多半島道路から東名に入る、今日は 13 年めの愛車に ETC を取り付けて最初のドライブである。知多半島道路は無事に通過し伊勢湾岸

に入ろうとしたら、ETC レーンは赤ランプがついておりやむを得ず一般レーンから進入した。早々に困ってしまう、こんなときはどうするのか、早速説明書を確認する。出る時にゲートで ETC カードを通行券と共に出せばよいと分かり一安心したところが東名へ入る地点で大渋滞、道路交通情報を聞くと事故があったらしい。なかなか本線に入れないばかりか、本線に入ってもノロノロが続く。
これはコースの選定を誤ったかなと思いながら進むと、右に寄れの標識がありしばらくすると舗装工事をしていた。事故ではなく補修工事だったのだ。反対車線も渋滞が続き、われわれが走り出してもまだ延々と渋滞が続いていた。改めて道路交通情報を聞くと、事故は別の場所だった。これでは帰りは大変なのでコースを変えて帰ることにした。そんなこともあり佐久間ダムに着いたのは 11.00”ころだった。紅葉もまだきれいですばらしい眺めが広がっている。でも工事関係者がいるだけで人影はない。こんなすばらしい大パノラマが見られるのにもったいないことだ、とは言え私も小学生の頃に来て以来である。ダムサイトには電力館があるも今は閉館している、それだけ人が来ないのだろう。

佐久間ダムにて

ダム湖を見る

二つのダムで水の有効利用

　佐久間ダムによってせき止められた湖の畔をくねくねと 27km 走る、途中にトンネルは 13 箇所。道もトンネルもとても狭くて対向車が来たらどうし

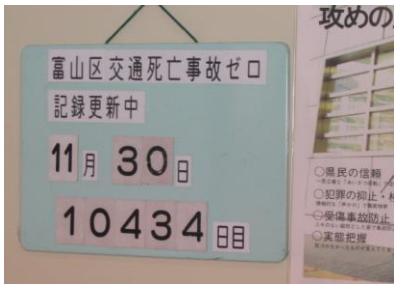
ょうかと不安になる。とその不安が的中し大型ダンプが正面に現われた、こちらが少しバックしてすれ違うことが出来一安心。途中に展望所があり、新豊根発電所の説明版が取り付けられていた。紅葉に彩られた湖面をながめて小休憩し、説明版を見てみるとこの佐久間ダムと新豊根ダムは 2.5km しか離れておらず、新豊根発電所で発電した水は佐久間ダムに流れ込むようになっている。その水を夜間の余っている電力を使い、また新豊根ダムにくみ上げている。つまり水を放流することなく、何回も何回も繰り返して発電に利用しているわけだ。

まだまだ元気富山地区

この佐久間湖畔の道が県道 1 号で 45 分ほど走り、豊根村へ行く道路に交差し富山地区に着いた。でも豊根村方面は通行止めの看板がありガードマンが立っていた。またまたトラブルだ、これでは豊根村そして東栄町へ行けなくなる。なんにしても食事の出来る所を見つけようと、無理やり車をなんとか停めた。そこは村の特産品加工場で漬物などを加工しているようだった。あたりは急な斜面になっており、道路沿い以外は全て斜面に家は建っている。メインストリートを歩くと消防署、旧村役場、駐在所がならんでいる。

旧役場前のメインストリート

反対側には喫茶店が一軒、でも準備中になっている。ぐるりと見回すと斜面の上のほうに立派な建物、明らかに学校と分かる白いそれもガラス張りのモダンなものが見える。そして天竜川の流れと設楽の山々が広がっている。まさにここは山の中だ。食事の出来る所はないか駐在所で聞こうと、ドアを開けるとそこには富山村だったころの輝かしい記録が掲示されていた。
交通事故死ゼロの記録だ、まだ 11 月 29 日の日付のままで 10433 日とある。そこへ駐在さんが顔を出したので、食事の出来る所を聞くも目の前の喫茶店しかないので、豊根地区まで行かないとないという。そこで通行止めのことを聞くと、12.00”～13.00”は通行できるがそのあとは 15.00”まで通行できないというのだ。やれやれこれではすぐにここを発って、豊根地区へ向かうしかないと思案していると「大嵐駅へ寄ってみてはどうです、この駅は東京駅を模して富山村で建てた駅ですよ」という。車で 5 分くらいというので寄ってみることに、そのまえに交通事故死ゼロの掲示板について日付が 29 日ですがと聞く。「ああっ」と言いながらあわてることもなく日付と件数を更新した。11 月 30 日で 10434 日交通事故死ゼロの記録は 28 年間の積み重ねという、そして駐在さんも 6 代目だという。村はなくなったが更に続けて欲しい記録である。



富山区に変わった掲示

村が造った大嵐駅

村は愛知県、駅は静岡県浜松市

村一番の観光地になった大嵐駅に向かった、天竜川をつり橋で渡るとそこに駅はある。でもここは静岡県浜松市なのだ。車を停められるか心配したが線路に沿って立派な駐車場があり、すでに数台の車が止まっていた。でも人はいないことからパーク&ドライが実践されている。
駅は大嵐駅とは書かれていない、「みんなの休み所」とあり駅員もいないしまわりに人家もない。トイレを併設したなかなか立派な建物である、ダイヤ表を見たら一日に 8 本の電車が停車するのみだが、山間地にあっては大事な大事な交通手段だ。

天竜川をつり橋で渡り大嵐駅前へ

山の中に現われたモダンな豊根村役場

12.15”富山をあとに豊根へ向かう、工事は峠付近ののり面補修だった。この時間しか通行できないので数台の対向車があった。狭いくねくね道で 27km もあり、役場のある豊根には 45 分もかかった。
でもあたりの山や谷は紅葉が綺麗で、久しぶりにいいドライブが出来た。駐在さんに聞いた「パルとよね」で食事しょうと行ってみると、車が停まっていないのでおかしいと思ったら定休日だった。やむを得ず引き返して役場の駐車場に車を停めて、隣のレストランみどりへ入る。なかなか大きなレストランで、テーブルもいくつかあり先客が数人いた。おそらく役場の用事なので来た人たちが皆利用するのだろう。ランチを食べたがオムライスと、イカの味噌和えという珍しい組み合わせだった。でもオムライスなんて久しぶり

なので旨かった。食事の後あたりを見てみると、周囲には森林組合、商工会、観光協会もあり役場を中心に集まっている、レストランの広い駐車場もあった。役場はレンガ造りのとてもモダンな建物だ、東浦の役場とは雲泥の差がある。トイレを借りながら見学してきたが、静かな雰囲気で山の中の役場にしては立派すぎるがなかなか周囲に溶け込んでいた。

豊根村役場

とうえい温泉

源泉は 32.2℃の食塩泉

豊根村を出て R151 を走り東栄町へ入る、ここは鎌倉.室町時代から伝わる花祭りが有名だ。毎年 11 月～1 月の土日に各所で行われるもので五穀豊穣を祈る神事芸能。昭和 51 年には国の重要無形民族文化財に指定されている。R151 からそれて街へ入りこじんまりとした役場を過ぎると、とうえい温泉がある。広い駐車場があり車がたくさん停まっている、どこからこんなに集まってくるのかと思うほどだ。

とうえい温泉の特徴

泉質はナトリュウム.カルシューム塩化物温泉で、最大の特徴は保温効果の長時間持続。これは皮膚についた塩分が汗の蒸発を妨げるためで、体の中から強く温まるという。

大きな効能としては関節痛、リュウマチなどの症状の緩和ができることで整形外科の湯と呼んでもよいほどと宣伝している。湧き出る量は毎分 415 リットル、日に 25m プール二杯分に相当する。水素イオン濃度は 7.3 で人のイオン濃度に非常に近く、入浴時のけい皮吸収が多く短時間で温泉効果があるとされる。いろいろなお風呂があったが、源泉は露天風呂だけで他はマンガンなどを除去した白湯と表示されていた。そのためジャグジーなどのあとは露天風呂でゆっくり温まってから上がった。

帰りは山間部を横断して豊田松平 IC へ

15.15”東栄町を出発し R473 を走り田口へ出て、作手を経由して下山に入り R301 を走る。山間部の道路であり、まだまだ狭いところがかなりあった。この間小休止を一度とっただけで、恒例のコーヒータイムにすることはできずちょっぴり残念。東海環状道路の松平 IC に着いた時にはすでに暗くなっていた。
高速を乗り継ぎ東浦 IC を出た時は 17.30”を過ぎて、2 時間半ほどで帰れたので東名高速を走らなくて正解だったようだ。